

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	宝塚市立子ども発達支援センター				公表日	2026年 2月 18日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	17	9	朝のミーティング時に保育内容等の確認をし、安全面に配慮してスペース確保の調整をしています。子どもの興味が分散するように遊具を組んだり、2グループに分けて活動するなどの工夫をしています。	施設が狭い中で各クラスで工夫して療育しているが、クラスだけでは過ごせない児童もあり、また物を片付けるスペースが少なく苦勞しています。特に雨が降って園庭が使えない時は困るので、保育室がもう少し必要と考えます。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	18	8	国基準以上の職員を配置しています。	事業が増え、職員補充が不十分な部門や育休代替の人員確保に苦勞していますが、引き続き人員確保に努めます。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	21	4	必要に応じてトイレや衣服の着脱スペースに囲いを置くなど、集中しやすい環境をつくっています。各クラス・子どもの特性に応じた環境になるように努め、大人の日々の工夫で子どもに分かりやすい動線を作っています。写真、絵カード、マーク、矢印等を利用し、わかりやすい提示をしています。	施設は老朽化していて、トイレの空間の温度調整が難しく、Wi-Fi環境も悪いので、計画的に改善に努めます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	14	11	毎日実施前後には清掃を行い、清潔な環境で療育できるよう心がけています、また、必要な箇所は順次修繕等を行っています。	施設は老朽化していて、トイレの空間の温度調整が難しく、遊具等は経年劣化が激しいので計画的に改善に努めます。毎日清掃に努めていますが、可能なものは買い替え、細かい箇所にも一層気を付けます。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	20	6	部屋の確保が難しい場合、パーティション等で仕切りを設ける等こどもが個別に使用できるスペースは確保しています。また、複数の事業があり個別の部屋が足りないが、時間帯をずらす等で調整しています。	工夫しているが、個別療育をする保育室がもう少し必要と考えます。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	21	5	部門ごとに日々の業務の振り返りを行い、個別の改善を行うとともに、センター全体の係長以上の職員による課内会議で将来的な問題の検討を行っています。今後も具体的な目標設定を意識して会議を開き検討していきます。	引き続き実施します。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	25	0	保護者等の意向等を把握し、職員間で協議し、改善可能なものについては実施している。	引き続き実施します。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	25	0	センター全体の係長以上の職員による課内会議を行うほか、年2回センター職員全員の学習会で意見交換を行い、業務の改善を行っている。	引き続き実施し、今後は個別面談の機会を作り、更なる業務の改善を行います。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	15	7	第三者による外部評価は実施していませんが、市の部局の一つとして、事務事業評価を実施しており、今後もその枠組みの中で業務改善を行っていきます。	引き続き実施します。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	23	3	兵庫県知的障害者施設協会阪丹但地区や近畿肢体不自由児施設連絡協議会が主催する研修会にも適宜し、スキルアップを図っています。	多くの職員が参加できるよう努めます。
その他	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	25	1	適切に支援プログラムが作成、公表している。	引き続き実施します。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	24	1	事前に保護者のニーズを聴き取り、それを踏まえた上で、子どもの発達に合わせた個別支援計画を作成して、保護者の同意を得るようにしています。	引き続き実施します。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	26	0	児童発達支援管理責任者とクラス担任が共通理解のもと、個々の子どもの発達状況に合った対応を十分に検討が行われています。	引き続き実施します。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	26	0	児童発達支援管理責任者とクラス担任だけでなく、クラスの職員会議で共有され、計画に沿った支援が行われています。	引き続き実施します。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	24	1	標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用して確認しています。	引き続き実施します。

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	26	0	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、具体的な支援内容が設定されています。	引き続き実施します。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	26	0	会議で計画的なプログラムの検討を行っています。	引き続き実施します。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	26	0	会議で計画的なプログラムの検討を行い、固定化しないよう工夫しています。	引き続き実施します。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	25	1	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われています。	引き続き実施します。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	26	0	療育開始前の打ち合わせで、支援内容、役割分担、注意点などの確認を行っています。	引き続き実施します。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	26	0	療育終了後、当日の振り返りを行い、職員間で情報交換を行っています。	引き続き実施します。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	26	0	子どもの活動や支援内容の記録を行い、支援の検証・改善につなげています。	引き続き実施します。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	26	0	日常の記録等に基づき、半年ごと児童発達支援計画の見直し及び作成を行い、適切な見直しを行っています。	引き続き実施します。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	22	2	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議には、担当係長又はそのこどもの状況をよく理解した職員が参画しています。	引き続き実施します。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	24	1	医療は入っていないが、地域の保健、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えています。	引き続き実施します。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	26	0	併行利用や移行に向けた支援をインクルージョン推進の観点から行っています。また、保育所や幼稚園、教育委員会事務局等との間で会議を開き、支援内容等の情報共有と相互理解を図っています。	引き続き実施します。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	25	0	就学時の移行の際には、教育委員会事務局や小学校、特別支援学校(小学部)との間で会議を開き、支援内容等の情報共有と相互理解を図っています。	引き続き実施します。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	18	0	兵庫県知的障害者施設協会阪丹但地区や近畿肢体不自由児施設連絡協議会員との連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を	引き続き実施します。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外務研修に参加させているか。	24	1	積極的に医師や専門機関等から助言を受け、職員を兵庫県知的障害者施設協会阪丹但地区や近畿肢体不自由児施設連絡協議会が主催する研修会に参加させています。	引き続き実施します。
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	16	4	自立支援協議会・子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ主に所長が積極的に参加しています。	担当者が出席する会議は事業実施日と重なり、年1～2回しか参加出来ていないため検討します。
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	-	-		
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	22	1	センター内のクラスの特長（週1日登園制度のあそびっこクラスでは実施していません）や保護者の希望に応じて、近隣の幼稚園や隣接する保育所と交流する機会を設けています。	利用者の意見を聞きながら、交流先と調整し、引き続き実施します。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	25	0	日々の連絡ノートや電話を通じて、保護者との情報共有を行っています。また、親子登園のクラスにおいては、登園時にその都度、家庭での子どもの様子などの情報共有を行っています。	引き続き実施します。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	24	1	保護者勉強会などの機会を通じて、ペアレントトレーニングを実施しています。また、親子登園のクラスにおいては、登園時にその都度、子どもへの関わり方などをアドバイスしています。	勉強会の機会は設けているが、参加率が低い時があるので、内容を検討します。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	26	0	契約時に、重要事項説明書で説明しています。また、費用負担の詳細を説明する資料を渡して、納得を得られるよう丁寧に説明しています。	引き続き実施します。	

保護者への説明等	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	26	0	定期的に保護者と面談してこどもや家族の意向を確認し、児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重を尊重しています。	引き続き実施します。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	26	0	個別に丁寧に説明し、同意を得ています。	引き続き実施します。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	26	0	日々関わっている担当職員が悩みを伺い、対応していますが、解決が困難なことについては、センター内で相談、検討を行い、対応しています。	引き続き実施します。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	22	3	クラス懇談会や保護者勉強会等で保護者の方同士が、話し合う機会をできる限り設けるように努めています。きょうだい支援については職員配置に余裕がなく実施できておりません。	きょうだい同士の交流の機会をほとんど持たず、夏の行事で1回だけできました。保護者の要望に合わせて回数・場を検討します。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	26	0	職員や児童発達支援管理責任者が苦情の内容に応じて迅速かつ適切に対応しています。	引き続き実施します。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	18	5	行事等のお知らせや、感染症への留意事項など、必要に応じて情報を発信しています。お休みの連絡等のみがインターネットでできるようになった。	用紙でのご案内はしているものの、ホームページやSNSでの発信力が弱いので、今後は個人情報に注意しながら可能な限り発信します。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	26	0	個人情報に関して契約時に同意書を取り、守秘義務を順守しています。	引き続き実施します。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	25	1	子どもへは、視覚支援を用いた環境を整え、意思疎通を行っています。保護者の方へは、日々の連絡ノート等を通じて情報を共有しています。	引き続き実施します。
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	13	9	同伴時託児についてボランティアの協力をいただいたり、周辺の学校等からの実習生の受け入れを行っています。	引き続き実施します。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	23	2	マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、施設全体で月1回午前中に避難訓練を実施するほか、午後のみ利用する方に向けて、年数回午後にも避難訓練を実施しています。	訓練に関しては限定的なものに留まっているので、防犯対策訓練での合言葉等を周知を検討します。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	26	0	業務継続計画（BCP）を策定し、施設全体で月1回午前中に避難訓練を実施するほか、午後のみ利用する方に向けて、年数回午後にも避難訓練を実施しています。	引き続き実施します。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	26	0	日々関わっている担当職員が連絡ノートや電話を通じて、保護者との情報共有を行っています。	引き続き実施します。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	26	0	食物アレルギーのあるこどもについては、かかりつけ医師の診断書を提出していただき、診断書に基づいて給食対応をしています。また、トレーの色を分けたり、緊急対応手順の確認をすることで、事故発生や事故重大化の防止に努めています。	引き続き実施します。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	25	0	施設全体で定期的に避難訓練を実施するほか、保育内容等の確認をし、安全面に配慮してスペース確保の調整するなどの工夫をしています。	引き続き実施します。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	24	0	担当職員が保護者に周知して情報共有を行っています。また、避難訓練には同伴した保護者も一緒に参加します。	引き続き実施します。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	25	1	ヒヤリハットの事案があるたびに口頭及び書面での報告と共有を行い、センター全体で防止するよう徹底しています。	引き続き実施します。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	22	3	虐待防止研修への参加や研修内容の回覧を行い、対応しています。	引き続き実施します。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	22	2	子どもの安全上必要な場合は、会議等で協議検討し、保護者に説明を行い、同意を得たうえで、必要時に行っています。	引き続き実施します。	